

学励コース「医療専攻」たより



新潟県立新潟西高等学校 Vol.5 平成27年1月5日

医療業務に携わる人材(看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等)育成のための進学指導を行います。→ 新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学等の進学を目指します。

〇11月14日(金) 14:00~16:10

JA新潟厚生連 新潟医療センター見学

当日のスケジュール

- 1 あいさつ・職員紹介・オリエンテーション
- 2 院内見学 放射線科・リハビリテーション科・手術室・透析室
A 3病棟 小児科産科病棟
B 4病棟 回復期リハビリテーション病棟
- 3 講話 リハビリテーション科：理学療法士
放射線科：診療放射線技師
看護部：助産師・認定看護師
- 4 質疑応答・まとめ・終了あいさつ



リハビリテーション科にて



職員の方々と質疑応答



皆さんと記念撮影



リハビリテーション科・・・

患者様の大きな作品が、実際の11月のカレンダーとして掲示されていました。

色鮮やかに、丁寧に、作られていました。

*** 生徒の感想より ***

○院内見学では、様々な職場を見せていただきましたが、産婦人科が一番印象に残っています。初めて陣痛室や分娩室などを見学させていただきました。お母さんの陣痛を少しでも和らげるような物や、赤ちゃんが寒くならないような設備など、初めて見ることができました。

○医療関係のことだけではなく、人間関係のことも聞けたので参考になりました。今からでも、日常生活から気をつけていこうと思います。

○現在は、チーム医療が中心となっているので、多くの職種の仕事を知り、興味を持つことが大切だと感じました。そのためには、人と人との関わり方が重要だと思いました。職員の方からの言葉で「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる。」という言葉が、胸に響きました。「周囲の人との距離感を大切にしながら、自分の間違いは素直に認め、それを次に繋げること。」これは簡単そうですが、難しいことであり、だからこそ人を成長させることができることだと思いました。

○今までの病院見学の時よりも、たくさんの職員の方と話すことができました。いつも以上に質問をすることができ、普段疑問に思っていることが解決できました。職員の方の、笑顔が印象的でした。

○一番印象に残ったものは、リハビリテーションでした。元の生活に戻すことを目的とし、座布団や段差、台所用品など、家で暮らす時に必要な物を使っていました。また、患者さんの年齢や状況によって、作業の内容が異なっており、一人一人個別に考えてプログラムが組まれていると感じました。

○病院の中は全27科、医師50人。看護師・介護師など様々な職種の合計で、593人の職員が働いていると聞き、すごく驚きました。認定看護師さんのお話を伺い、「こういう器の大きい人が、看護でも活躍するのだなあ。」と思い、私もそのような看護師を目指そうと思いました。

○11月25日(火) 2学年対象医療講演会(新潟大学出前講義) 生徒44名受講

講師：新潟大学 医学部保健学科 住吉智子先生 演題：「子どもの看護」



「子どもの持つ力を信じ、それを支えることが、医療として重要なケアであること。」

「子どもが知ること、わかることが子どもの力になること。」

「子どもの心は、曖昧で不明確なものを怖いと感じ、予測できないことが大きなストレスになる。」
「子どもの病状や今後の処置などについては、子どもの年齢に応じた説明が必要である。それをしないと、子どもは間違いだらけの恐ろしい世界を作りあげてしまう。」

「『嘘をつかないで。ちゃんと教えて。痛いかどうか全部。知らないことの方が嫌。心の準備ができないよ。』と、子どもは考える。」

「子どもの『待つ。』は、何かのサイン。子どもにも覚悟の時間が必要である。」

「子どもも自分のことは自分で決めるものである。」

「子どもの頑張りを認めること。言葉は短くはっきりと。笑顔で接し、視線を合わせること。」

など、子どもの看護についての重要ポイントをお話してくださいました。